



小江戸巡回バス
西武線各駅で運賃とセットになった
「小江戸・川越フリークーポン」有り



一番街商店街には人力車も

特集



NHKの連続テレビ小説「つばさ」の舞台として注目を集める川越市。5月3日〜5日の連休の出入は約14万3千人。今回初めて蔵造りの通りを11時から午後4時までの間、交通規制してイベントが催されましたが、4時を過ぎても観光客はひきもきらず、車が通れない状況だったとか（川越市役所観光課のお話）。そんな小江戸川越人気を探るため、ふらりと出かけてみました。

洋画家の膨大なコレクション

川越名所は数々あれど、まず訪れたかったのがながの生活骨董館。以前、友人から「個人で骨董のすごいコレクションをしている人がいる」と聞いていたので、ぜひ見てみたいものと希っていました。

西武線本川越駅で下り、駅前から巡回バスで次の停留所、中院で下車。川越第一中学の近く、住宅街の中に「ひな人形展」の看板。気をつけていないと見落としてしまいそうな、前庭に花や樹木溢れる一軒家です。オーナーの永野マサさんが長年にわたり蒐集した、古伊万里やガラス器、ひな人形、子どもの着物や小物などを多くの人々に見てもらいたいと、自宅2階を展示室にしたもの。

2月から5月の間はひな人形展。室内の壁、ガラスケース内、そのほとんどがおひなさまで埋め尽くされた様

ちよつと足をのばして

小江戸・川越 見て歩き



永野マサさん

は圧巻。永野さんが一人で10年間にわたり日本中から集めたもの。

「次女でおひなさまを買ってもらえなかったのが、憧れがあったんですよ。昔のおひなさまは作りがいいし、布も顔もいいですね」

江戸時代中期頃までは武士階級以上でなければ、ひな人形は持てないものだったそうです。ここには江戸中期の大きな享保ひなや有職ひな、老舗

の京都丸平人形店作の立ち雛も飾られています。これら高貴なひな人形の一方では、鹿児島の骨董市で求めたという押し絵のひな人形や、明治時代の素朴な土人形、明治の台所用品のミニチュアまで。当時の女性や子どもたちの暮らしを想像しながら見るのも楽しいかもしれません。悩みは古い人形たちのメンテナンス。享保ひなの男雛の方は現在虫食いのため修理に出

ながの生活骨董館

- 入館料 400円（コーヒー付）
- 開館時間 10時～15時30分（月休）
- 川越市小仙波町5-7-4
- TEL 049-222-6232



表情豊かな五百羅漢が533体



喜多院

- 拝観料 大人 400円 小人(小・中学生) 200円
宝物特別展の期間は別料金
- 拝観時間 平日：8時50分～16時30分
(日祝は16時50分まで)
- 川越市小仙波町1-20-1
- TEL 049-222-0859

しています。

膨大なコレクションは1年を3回に分けて展示。2月～5月のひな人形6月～9月は明治、大正のガラス器など、10月～1月は古伊万里展示。骨董との最初の出会いが古伊万里だった永野さん、その思い入れはいかばかりか、また見に行きたいものです。

本業は洋画家。若い頃はスペインのトレドへ3年間留学した経験も持つ。室内の壁上部にはヨーロッパの街や田舎を描いた小品がズラリ。今も毎年、絵を描くために旅に出ています。最近ではフランスの美しい田舎が気に入り、「自由気ままな貧乏旅行を楽しんでいます」。6月は旅行のため20日からガラス器展の予定。前もって電話で確認して伺ったほうがよさそうです。

喜多院から不動蚤の市へ

川越大師として親しまれ、新年のだるま市で知られる喜多院では丁度、「宝物特別展」の開催中。年に一度、4月下旬からゴールデンウィークにかけて開かれるもので、徳川家ゆかりの数多くの宝物が展示されます。

喜多院は慶長4年(1599)に27世を継いだ天海僧正(慈眼大師)が徳川家康の厚い信頼を得て寺勢盛んとなり、寛永15年(1638)の川

越大火後の再建時には、三

代将軍家光の命で江戸城紅葉山(皇居)の別殿を移築し、客殿、書院に充てました。「家光誕生の間」、「春日局化粧の間」があるのはそのためです。



湯桶や耳たらい、食籠などの使用道具、4面に螺細細工が施された碁盤、時絵が美しい婚禮道具など、当時の意匠や技術の高さを目を見張っています。中でも興味をひいたのは「紙本着色職人尽絵」。桃山時代の京都の様々な職人を描いたものといわれ、狩野派の狩野吉信(1552～1640)晩年の作品。仏師、畫師、弓師、扇師、刀師など25種、当時の職人の風俗がわかる、美術史上大変貴重な絵で、国指定重要文化財になっています。江戸城紅葉山を模して造られた奥庭もため息がでるくらい素晴らしい。

五百羅漢も喜多院のもうひとつの顔。羅漢とは「阿羅漢」の略で、尊敬や施しを受けるに相応しい聖者、という意味だそう。1782年から約50年にわたり建立されたもので、全部で533体。笑ったり、怒ったり、「いないいない、ばあ」をしているようなお顔に思わずシャッターを切りたくなります。羅漢さんの人間くさい表

情に癒される場所です。

「今日は月1回のお不動様の蚤の市ですよ」と先に訪ねた永野さんからラッキーな情報を仕入れ、蚤の市へ。喜多院の北側にある成田山川越別院、地元では「お不動さま」として親しまれているお寺。境内はアジアのバザールのような賑わい。山門の外にまで店が溢れています。毎月28日に開かれる骨董、古民具市には全国から130余りの業者が参集し、関東屈指の規模。時代物の筆筒から着物、皿茶碗、ありとあらゆるものが売られています。掘り出し物を探したかったのですが先を急がねばならず、歩を早めました。



「じばや」の舞台、一番街商店街

仲町交差点にさしかかると急に人が増えてきました。ここからが一番街商店街、蔵通りエリアです。電線が地下に埋設されているせいか、空が

モダン亭太陽軒

■川越市元町1-1-23

■TEL 049-222-0259 月休



川越スカラ座

■川越市元町1-1-1

■TEL 049-223-0733

火休



陶舗やまわ・陶路子

■川越市幸町7-1

■TEL 049-222-0989

右) やまわ店主で「蔵の会」

代表 原知之さん



広く、通りの両側に連なる蔵造りの家々。さつきまで歩いてきた風景とのギャップに、撮影所のオープンセットにでも迷い込んだような気分。

どこの店にも「つばさ」ちゃんのポスターが貼られています。つばさの実家「甘玉堂」のロケ地となったのが、**陶舗やまわ**。この通りでもひとときま目を引く、見事な入母屋造りの店蔵です。この外観に甘玉堂の屋根看板がかけられ、「うちの店の商品が見えないよう、ガラス戸にカバーをかけて撮影されました」と店主の原知之さん。

明治26年(1893)に完成した店蔵の奥には、漆喰で塗り込められた住居、物置、土蔵と連なり、火災時の防火壁ともなっています。店内はモダンな和テイストで地元作家の作品が並べられ、一角にはさつまいもミニ懐石が人気の飲食処「陶路子(とろっこ)」もあります。

今でこそ平日も観光客で賑わう一番街ですが、1960〜70年代の高度成長期に商業の中心地が川越駅前に移った後は、寂れて活気のない街でした。しかし時代とともに大きな転換期に入り、昭和58年に住民主体のまちづくりや商店街活性化の景観保存を目指して「川越蔵の会」(原知之さんが4代目代表)が結成されました。住民、行政、研究者、ファンの川越

蔵通りからちよつとそれると、ひっそりとした路地。そんな場所も川越の魅力です。大沢家住宅から料亭などが連なる路地を3分ほど歩くと、川越に唯一残る映画館、**川越スカラ座**があります。こんな所に映画館? そのレトロな外観にうれしくなります。最盛期の昭和30年代には川越に9軒あったという映画館も今はここだけ。しかも2年前の5月に、明治時代から続くこの館は一度閉館。しかし、最後の映画館を復活させようと、地元の若者が動き、その3ヵ月後の8月に再び灯りがともされました。現在はNPO法人の手で運営されてい



蔵の街並みに西洋レトロ
大正7年建造の
りそな銀行川越支店

路地裏に残る古きよき川越

ます。ここでも川越の底力をみたく思いました。川越スカラ座の隣が大正11年創業のレストラン**モダン亭太陽軒**。昭和4年建築の洋館を平成15年にリニューアル。色漆喰の外壁にステンドグラス、大正ロマン漂うレストランは国の登録有形文化財です。

見所いっぱい川越散歩は1日では足りません。歴史文化、ハイカラ建築、美味・カフェ巡りそれに舟運で栄えた新河岸川沿いを歩く…それぞれテーマを絞りゆつくり探訪するのもいいでしょう。ほのぼのエリアから電車で40分もあれば着ける街ですが、小旅行気分を味わえますよ。

◆◆◆ 耳より情報 ◆◆◆

西武・小田急・江ノ電合同「のんびりハイク&ウォーク」

◆小江戸・川越蔵の街めぐり◆

6月21日(日)本川越駅集合(9時30分~11時)

雨天決行 自由参加 無料(参拝料・入館料は各自負担)

(問) 04(2926) 2222

西武鉄道スマイル&スマイル部

◆小江戸・川越花火大会◆

7月18日(土)川越市安比奈親水公園

(問) 049(222) 5556 川越駅観光案内所